

2022(令和4)年度後期 法華コモンズ講座 10月より開講

開設講座一覧と受講の手引き

〈 開設講座 〉

- 一日集中講座「偽書が生み出した日本仏教」講義と対談によるシンポジウム
11月12日(土) 午後1時30分～6時30分 講師：佐藤弘夫先生×菊地大樹先生
講義Ⅰ「顕現する仏たち—「生身」と中世仏教」講師：佐藤先生
講義Ⅱ「偽書と伝授—語りえぬものを語ること—」講師：菊地先生 / 対談と質疑応答
- 連続講座「仏教哲学再考—『八宗綱要』を手掛かりに⑤」全4回
開講時間 午後4時30分～6時30分 講師：末木 文美士
第1回 11月19日 / 第2回 12月17日 / 第3回 1月7日 / 第4回 2月11日
- シリーズ講座「法華仏教講座」全5回 開講時間 午後4時30分～6時30分
第1回 10月29日 「日蓮花押の母字について」 講師：西山明仁
第2回 11月26日 「チベット仏教の他空説の源流について」 講師：望月海慧
第3回 12月24日 「日蓮伝再考～日蓮神話を超えて」 講師：松尾剛次
第4回 1月28日 「『観心本尊抄』から『曾谷入道殿許御書』へ」 講師：菅原関道
第5回 3月25日 「『大乘起信論』の本覚思想について」 講師：花野充道
- 連続講座「震災転移論——末法の世に菩薩が来りて衆生を救う？」全6回
開講時間 午後6時30分～8時30分 講師：磯前 順一
第1回 10月 3日 / 第2回 11月14日 / 第3回 12月12日
第4回 1月16日 / 第5回 2月20日 / 第6回 3月13日
- 連続講座「史実・僧侶妻帯世襲——ブツダ時代から現代まで」全6回
開講時間 午後4時30分～6時30分 講師：大竹 晋
第1回 10月22日 / 第2回 11月 5日 / 第3回 12月 3日
第4回 1月14日 / 第5回 2月 4日 / 第6回 3月 4日
- 連続講座「『法華経』『法華文句』講義」全6回
原則：最終月曜日 午後6時30分～8時30分 講師：菅野 博史
第1回 10月24日 / 第2回 11月28日 / 第3回 12月19日
第4回 1月30日 / 第5回 2月27日 / 第6回 3月27日

※コロナ禍状況によりオンラインまた動画配信講義への変更等も御承知のほどお願いいたします

法華コモンズ仏教学林事務局

「再歴史化」の知的な拠点を創りましょう！ 理事長 西山 茂

戦前期に生きた田中智学は、日蓮仏教を近代日本に「再歴史化」（蘇生）するために、「祖道復古」と「国体開顕」および「宗門革命」（宗門の維新）の旗を掲げて日蓮主義の運動を主導し、複数の教学講習会を開いて、以後の日蓮仏教諸派の僧俗に多くの影響を与えました。

今回、私たちが11年間も続いた本化ネットワーク研究会を閉じて法華コモンズ仏教学林（門流や会派を超えた法華仏教の学び舎）を起ち上げたのも、法華仏教（日蓮仏教）を現代日本に「再歴史化」するためにほかなりません。「再歴史化」の意味を深く考えるとすれば、それは普遍的な宗教真理は特殊な歴史状況のなかに繰り返し「再歴史化」されなければ人々への説得力を失ってしまう、ということでしょう。

現代社会は智学の時代と違ってより複雑化しているだけでなく、教学や遺文の研究レベルも上がり、それだけ私たちが学ばなければならないことが多くなっています。こうしたことは、門流や会派が単独で法器養成等に取り組むことを非常に難しくしているといえます。そして、このような事態も、法華コモンズ仏教学林の誕生を促す要因となっているといえるでしょう。幸い、法華コモンズ仏教学林には、多彩で優れた講師陣が揃っています。

皆さま、この際、どうか法華コモンズ仏教学林の受講生となり、門流や会派の中垣を超えて法華仏教（日蓮仏教）の共通の智を学び、ともに仏国土づくりの聖業に邁進しようではありませんか。



皆様のご参加をお待ちしております！ 学林長 布施 義高

日蓮仏教の「再歴史化」を理念として、斯界に新たな地平を切り開いた、東洋大学名誉教授・西山茂先生主宰の本化ネットワーク研究会。また、日蓮聖人の実像や、壮大なスケールの思想の全体像を浮き彫りにすべく、日蓮門下が一丸となって編集され、平成27年全五巻の刊行完結をみた『シリーズ日蓮』（春秋社）。こうした画期的な成果を受け継ぎ、平成28年4月、西山茂先生を理事長、シリーズ日蓮刊行会会長・佐古弘文先生（同年11月御遷化）を副理事長に仰ぎ、法華コモンズ仏教学林が始動いたしました。

これから本格的に法華経や日蓮聖人を学びたい方の登竜門として、また、各教団が課題とする人材育成、次代の日蓮門下全体の隆盛へ向けての基礎作りの場として、さらには、より高みを目指す研究者の研鑽の場として、多様なニーズを満たせるよう、スタッフ一同、鋭意努力して参ります。

法華コモンズの主役は、これから参加される皆様お一人おひとりです。仏教界全体に、時代を先導し、光明を灯す力が求められている昨今、日蓮仏教（法華仏教）の立場から、世の期待に大いに応えていこうではありませんか。



法華 commons 仏教学林 スタッフ紹介

【運営スタッフ】	【教学委員】	【講座担当】
○理事長 西山 茂	○上杉清文	○末木先生講座 佐古弘純／ビデオ班
○学林長 布施義高	○花野充道	○磯前先生講座 澁澤光紀／ビデオ班
○事務担当 澁澤光紀	○菅野博史	○大竹先生講座 武川清明／作田光照／芹澤寛隆
竹内敬雅	○寺尾英智	○菅野先生講座 稲田隆広／作田光照／澁澤光紀
○財務担当 竹内敬雅	○三輪是法	○法華仏教講座 西山明仁／佐古弘純／波田地克利
○総務担当 西條義昌		○一日集中講座 西山明仁／谷口智／芹澤寛隆／他
○ブログ担当 林 明彦		
○ツイッター担当 武川清明		
○ビデオ班 竹内敬雅／神蔵寿観／林 明彦／山名隆年		

【 講座会場 】

福聚山 常円寺 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03 (3371) 1797

祖師堂 地階ホール (または日蓮仏教研究所の一階「学室」)

※「対面講義」を前提として開催日と会場をお知らせしています。コロナ禍の状況により「オンライン講義」「講座動画配信」「代講」または「延期」「中止」などの変更も予測されますので、受講者の皆さまにはご了承の程よろしくお願い致します。なお、延期・中止の場合は「受講料は返却」しております。

《会場への交通》

- JR線・小田急線・京王線・丸ノ内線を利用の場合
⇒ 新宿駅西口改札より徒歩6分
- 西武新宿線を利用の場合
⇒ 西武新宿駅正面口改札より徒歩6分
- 大江戸線を利用の場合
⇒ 新宿西口駅「D5出口」より徒歩3分
- 丸ノ内線を利用の場合
⇒ 西新宿駅1番出口より徒歩4分



— 法華コモンズ仏教学林 2022年度 後期 **対面&実況** —

1日集中講座 — 講義と対談によるシンポジウム —

偽書が生み出した日本仏教

講師：佐藤弘夫 先生 × 菊地大樹 先生

11月12日(土) 午後1時30分～6時30分 於・常円寺祖師堂

講義Ⅰ「顕現する仏たち—「生身」と中世仏教」 講師：佐藤弘夫先生

講義Ⅱ「偽書と伝授—語りえぬものを語ること—」 講師：菊地大樹先生

日本中世とは膨大な偽書が作られた時代であり、新仏教もその思想風土の中から登場してきています。また新仏教の各宗祖が書き残されたもので最も数が多い「日蓮遺文」ですが、その真偽問題は今も教学上の大きな課題となっています。偽書はなぜ書かれ、広まっていったのか。

この一日集中講座では、佐藤弘夫先生と菊地大樹先生をお招きして、「偽書」をテーマに講義と討議をして頂き、たんなる個別文献の真偽論とは違った新たな文脈からその発生と意義について学んでいきます。

講義Ⅰ 顕現する仏たち—「生身」と中世仏教

講師：佐藤弘夫 先生

【講義概要】

従来の鎌倉仏教研究では、遺文に混じる「偽書」は不純物とされ、いかにそれを取り除くかに多大な労力が費やされてきた。それが研究の精度向上に貢献したことに疑問の余地はないが、他方で祖師の思想を合理的な解釈の枠に当てはめて、それが本来持っていた生々しいエネルギーを切り捨ててきてしまったように思われる。

今回の講義では、「生身」をキーワードにして祖師たちの神秘体験に着目し、近代的な実証史学から見落とされてきた旺盛なパワーに満ち溢れた中世仏教像の再構築を試みるとともに、近代に至る広いコンテクストのなかで、それが持つ歴史的意義を探ってみたい。

○参考文献：佐藤弘夫『偽書の精神史』講談社選書、2002年

【講師略歴】

佐藤弘夫（さとうひろお）：1953年生まれ。東北大学大学院文学研究科教授。霊場・死生観・ヒトガミ・鎌倉仏教・ヤスクニなどをキーワードに、日本の思想と宗教を研究している。著書に、『神国日本』『日蓮「立正安国論」全訳注』（講談社学術文庫）、『死者の花嫁』（幻戯書房）、『鎌倉仏教』（ちくま学芸文庫）、『アマテラスの変貌』（法蔵館文庫）、『日本人と神』（講談社現代新書）などがある。

講義Ⅱ 偽書と伝授—語りえぬものを語ること— 講師：菊地大樹 先生

【講義概要】

日本の歴史は作為の多い『日本書紀』から始まり、多くの偽書・偽文書を作り出していった。とくに、“正統”を判断するべき立場を欠いた中世日本の宗教にとって、そもそも「偽書」とはなんだったのか。今回は空海に仮託された『御遺告』や日蓮『不動愛染感見記』などを取りあげながら、中世宗教をあらたな段階に導く原動力として偽書を再評価したい。

○参考文献：ルチア・ドルチェ「二元的原理の儀礼化—不動・愛染と力の秘像—」（同他編『儀礼の力—中世宗教の実践世界—』法蔵館、2010年）、菊地大樹「再考・持経者から日蓮へ—『虚空蔵求聞持法』と「不動愛染感見記」—」（花野充道博士古稀記念論文集刊行会編『仏教思想の展開』山喜房仏書林、2020年）。

【講師略歴】

菊地大樹（きくちひろき）：1968年生まれ。東京大学大学院修士課程修了。博士（文学）。現在、東京大学史料編纂所教授。著書に『中世仏教の原形と展開』（吉川弘文館、2007年）、『鎌倉仏教への道』（講談社、2011年）、『日本人と山の宗教』（講談社、2020年）他。論文に「再考：持経者から日蓮へ」（『花野充道博士古稀記念論集』山喜房仏書林、2020年）、「中世東国文化伝播論再考」（菊地大樹他編『寺社と社会の接点』高志書院、2021年）他。

《進行予定》

- 13:00 受付開始
- 13:30 開講 講座「偽書が生み出した日本仏教」 開講の挨拶と進行説明
- 13:40 講義Ⅰ 佐藤弘夫先生「顕現する仏たち—「生身」と中世仏教」（75分間）
- 14:55 休憩 （10分間）
- 15:05 講義Ⅱ 菊地大樹先生「偽書と伝授—語りえぬものを語ること—」（75分間）
- 16:20 休憩 （10分間）
- 16:30 質疑応答と対談 ※質疑は「質問用紙」と「口頭」で行う（120分間）
- 18:30 終了

【日 時】 2022年 11月12日（土）午後1時30分～6時30分

【会 場】 新宿 常円寺 祖師堂地階ホール 新宿区西新宿7-12-5 寺務所 ☎03(3371)1797
※対面講義が不可の場合は、オンライン講義（後に動画配信）のみにて開催します

【受講料】 5,000円 ※対面、オンラインとも同額になります

— 法華コモンズ仏教学林 2022年度後期 全4回 **オンライン講座** —

仏教哲学再考——『八宗綱要』を手掛かりに ⑤

講師：末本文美士 先生

【講義概要】

凝然『八宗綱要』（1268）は、著者29歳の若書きであるが、750年経った今日でも、仏教教学の全般を見渡すには、本書に優るものはない。とは言え、形式的に主要概念を羅列しただけのところも多く、いわば暗記用の受験参考書のような味気ないところがある。それ故、手掛かりとしては便利であるが、それ以上の内実を求めるのは難しい。そこで、本講義では、講読という形ではなく、本書を手掛かりとしつつも、それに捉われずに、諸宗の教学を今日どのように受け止め、考えたらよいか、応用的に問題を広げ、手探りして検討していきたい。前期の継続で、付録の禅と浄土を中心に取り上げ、ひとまず読み終わるようにしたいが、新規聴講も問題ない。下記テキストを用いるので、聴講者には毎回多少予習しておくことを求める。

★教科書：鎌田茂雄全訳注『八宗綱要』（講談社学術文庫）

【講師略歴】

末本文美士（すえきふみひこ）：1949年山梨県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。文学博士。現在、東京大学名誉教授、国際日本文化研究センター名誉教授、未来哲学研究所所長。専攻は仏教学、日本思想。著書に『日本仏教史 思想史としてのアプローチ』（新潮文庫）、『仏教 言葉の思想史』（岩波書店）、『日蓮入門 現世を撃つ思想』（ちくま新書）、『思想としての仏教入門』（トランスビュー）、『『碧巖録』を読む』（岩波現代文庫）、『草木成仏の思想』（サンガ）、『冥顕の哲学1、2』（ぶねうま舎）、『日本思想史』岩波新書、他多数。

【講義日】 全4回 原則・第1土曜日：午後4時30分～6時30分（Zoom配信）

第1回	（第17講）	2022年	11月19日（土）
第2回	（第18講）	//	12月17日（土）
第3回	（第19講）	2023年	1月7日（土）
第4回	（第20講）	//	2月11日（土）

【受講料】 1期4回分 10,000円 ※当日1回の受講料は3,000円です

※ 本講座は、オンライン実況講義で開催します。後に動画配信もあります。

— 法華コモンズ仏教学林 2022年度後期 全6回 **オンライン講座** —

震災転移論—末法の世に菩薩が来りて衆生を救う？

講師：磯前 順一 先生

【講義概要】

2011年3月11日の東日本震災から十一年。しかし、一体、何が解決したというのか。廃炉への見通しがきかない福島第一原発。「おれは田舎に帰還してまだ四年。だから震災四年だ！」しかも、戻るのは高齢者ばかり。そこに子供たちの笑顔はない。お酒を飲んで、「生き残った自分が申し訳ない」と涙する老人たち。差別、搾取、そして否認。一体、誰のせいなのだろう。いつから、こんな無表情な人間になったのだろうと恥じ入る。

そんな私の心に浮かぶ光景は、《籠のなかにいる鳥を眺める人間の風景》。しかし、突然、その光景は一変する。《私が鳥、鳥が人間》。いつの間にか籠の中に私が入り、籠の外に巨大な鳥が私を眺めている、嗚呼。

話の舞台は、宮城県の津波で最大の被害に遭ったと言われる石巻市から始まり、仙台をへて、回復した常磐線に沿って南相馬、第一原発周辺の浪江町と双葉町へ、さらにはいわき湯本へと南下する。沢田研二の歌声に誘われて、声なき人々の魂の声に耳を傾けよう。死者たちの遺言どおり、希望の灯を点す最後の旅に出るのだ。人間が人間であるためには、人間だけでは生きていけない。果たして末法の世に菩薩は降臨して、衆生を救うのだろうか。信仰が問われるときである。

《参考書籍》

磯前順一『死者のざわめき 被災地信仰論』（河出書房新社、2015年）

磯前順一「Without You～あなたのいない世界を生きて」『別離の悲しみとともに生きる 一痛みを知るといふこと』（本願寺出版、2022年）

【講師略歴】

磯前順一（いそまえじゅんいち）：1961年茨城県生まれ。宗教研究・批評理論。文学博士（東京大学）。東京大学助手、日本女子大学助教授を経て、現在、京都の国際日本文化研究センター教授。ロンドン大学、ハーバード大学、チューリヒ大学、チュービンゲン大学、ルール大学ボッフム、北京日本学研究中心、同志社大学などの客員教員や客員研究員を歴任する。単著に、東日本大震災後の東北地方を歩いたエッセイ『死者のざわめき 被災地信仰論』（河出書房新社、2015年）、現代社会の心象風景を精神分析論の視点から読み解いた『昭和・平成精神史』（講談社、2019年）および『公共宗教論から謎めいた他者論へ』（春秋社、2022年10月刊行）など。現在、今回の講義の内容をもとにした著作『震災転移論』を、精神分析を中心に企画を立てる京都の出版社、木立の文庫から準備中。

【講義日】 毎月の月曜日 午後6時30分～8時30分 (Zoom 配信) ※講義 1 時間半、討議 30 分間

第1回	10月 3日	傾聴論の限界	石巻	—	翻訳不能な起源
第2回	11月14日	差別論	京都	—	不可視の社会構造
第3回	12月12日	死者論	南相馬	—	謎めいた他者の眼差し
第4回	1月16日	感染する不安	東京	—	<転移/逆転移>論
第5回	2月20日	幽霊のいない町	双葉	—	翻訳論
第6回	3月13日	想いをかたちにして伝える	いわき	—	人間の主体化論

【受講料】 1期6回分 12,000円 ※当日1回の受講料は3,000円です

※ 本講座は、オンライン実況講義で開催します。後に動画配信もあります。

— 法華コモンズ仏教学林 2022年度後期 全6回 **対面&実況** —

史実・僧侶妻帯世襲—ブツダ時代から現代まで

講師：大竹 晋 先生

【講義概要】

今年(2022年)は明治5年(1872)の太政官布告「自今僧侶肉食妻帯蓄髪等可為勝手事」から150年の節目の年にあたります。これにちなんで、僧侶妻帯世襲の歴史を振り返ることを企てました。

実のところ、僧侶妻帯世襲は仏教の歴史においてかならずしも珍しい現象ではありません。僧侶妻帯世襲が仏教教団によって公認されたのは近代の日本が最初ですが、公認されないまでも、海外や、前近代の日本においては僧侶妻帯世襲がしばしば確認されています。日本における僧侶妻帯世襲は、海外における僧侶妻帯世襲との比較のもとに、考察されるべきであると思われます。

従来、僧侶妻帯世襲については破戒という観点から批判的に言及されることが多かったのですが、そのようなことはかならずしも生産的な提言につながりません。日本においては、とりわけ、明治5年以降の僧侶妻帯世襲について、僧侶みずからが批判を恐れ、論題にすることを避ける傾向があるようですが、そのような傾向が続くならば、いずれ、世代交代が進むにつれ、資料の散逸、情報の忘失によって、史実の細部がわからなくなる恐れがあります。本講師はこのことを予期して、これまでできるかぎり資料の収集を心がけてきました。本講義においては、その一端を紹介することによって、あらためて江湖のかたがたに情報の提供を呼びかけたいと思います。講義の姿勢としては、民族学や文化人類学の姿勢に学びつつ、あくまでひとつの習俗として、

僧侶妻帯世襲の史実を客観的に考察し、それによって将来に向けて生産的な提言を行なうことを目指します。

【講師略歴】

大竹 晋（おおたけすすむ）：1974年岐阜県生まれ。筑波大学大学院哲学・思想研究科修了。博士（文学）。現在、宗教評論家、仏典翻訳家。専攻は大乗仏教。近年の著書に『宗祖に訊く——日本仏教十三宗 教えの違い総わかり』『大乗起信論成立問題の研究——『大乗起信論』は漢文仏教文献からのパッチワーク』『大乗非仏説をこえて——大乗仏教は何のためにあるのか』『セルフ授戒で仏教徒——五戒・八戒・菩薩戒、インド直伝実践マニュアル』（以上、国書刊行会）、『「悟り体験」を読む——大乗仏教で覚醒した人々』（新潮社）など、訳書に『現代語訳 最澄全集』全四巻（国書刊行会）などがある。

【講義日】 毎月の土曜日 午後4時30分～6時30分（Zoom 配信）

- 第一回 10月22日 海外篇・古代から現代までの僧侶妻帯世襲
- 第二回 11月 5日 日本篇Ⅰ・前近代の僧侶妻帯世襲——解禁はどう準備されたか
- 第三回 12月 3日 日本篇Ⅱ・近現代の僧侶妻帯世襲——解禁はどう定着したか
- 第四回 1月14日 日本篇Ⅲ・近現代の僧侶妻帯世襲——教義はどう変わったか：顕密篇
- 第五回 2月 4日 日本篇Ⅳ・近現代の僧侶妻帯世襲——教義はどう変わったか：禅門篇
- 第六回 3月 4日 日本篇Ⅴ・近現代の僧侶妻帯世襲——僧侶はどう変わったか

- 第一回において検討される諸問題の例：ブッダはヤショードラーと離婚したか。／ブッダは僧侶妻帯をどう説いたか。／僧侶妻帯はいかなる地域に起こったか。／僧侶妻帯を予言する諸経はなぜ出現したか。
- 第二回において検討される諸問題の例：諸宗の宗祖は僧侶妻帯をどう説いたか。／僧侶妻帯はなぜ古代中世に起こったか。／僧侶妻帯はなぜ近世に弾圧されたか。／近代の僧侶妻帯世襲を近世に準備したのは何か。
- 第三回において検討される諸問題の例：僧侶妻帯世襲の利点と考えられたのは何か。／牧師の妻帯は僧侶の妻帯にどう影響したか。／戦争は僧侶妻帯世襲にどう影響したか。／諸宗の宗憲宗規に寺族条項が加わったのはいつか。
- 第四回において検討される諸問題の例：宗学者の妻帯は宗学にどう影響したか。／戒はいかに希釈されたか。
- 第五回において検討される諸問題の例：宗学者の妻帯は宗学にどう影響したか。／戒はいかに希釈されたか。
- 第六回において検討される諸問題の例：僧侶妻帯世襲は僧侶をどう変えたか。／諸宗にこれから起こることは何か。／僧侶妻帯世襲の史実から何を学ぶべきか。／僧侶妻帯世襲はどうなるか。

【会場】 新宿 常円寺 祖師堂 地階ホール

※対面講義が不可の場合は、オンライン講義（後に動画配信）のみにて開催します

【受講料】 1期分 12,000円（全6回の講義） ※当日1回の受講料は3,000円です

— 法華コモンズ仏教学林 2022年度後期 全5回 **対面&実況** —

シリーズ講座「**法華仏教講座**」

【日 時】全5回 原則土曜日の午後4時30分～6時30分 (2022年10月～2023年3月の5回)

【会 場】新宿常円寺祖師堂3階会議室 新宿区西新宿7-12-5 寺務所 ☎ 03 (3371) 1797

※対面講義が不可の場合は、オンラインのみ（後に動画配信）で開催する予定です

【受講料】1期5回分 10,000円 ※1回のみ受講料は3,000円です

第1回 日蓮花押の母字について

講師：西山明仁 先生

【日 時】 2022年 10月29日(土) 午後4時30分～6時30分

【講義概要】

日蓮聖人の花押について山川智応氏は、弘安元年を境にして花押の形状が変化することを指摘し、日蓮花押を前期と後期に分けたうえで、前期花押を梵字の「バン字」、後期花押を梵字の「ポロン字」をもとに作成している、と規定しました。それ以来山川氏の日蓮花押＝梵字説は人口に膾炙しています。

本講座では日蓮花押をめぐる、以下の問題を中心に諸資料をもとに確認してみたいと思います。

- ・日蓮花押の母字は梵字なのか？
- ・梵字以外の字を母字にしている可能性は無いのか？
- ・弘安元年を境にして花押の形状が変化した理由は何か？

日蓮花押をめぐるこれらの諸問題について、山川氏をはじめとする先学の先行研究を概観しながら、これまでの宗学的な視点に加え、歴史的・社会的視点から考察したいと思います。また、これまであまり注目されてこなかった日蓮聖人の署名の形状や、六老僧をはじめとする日蓮聖人の弟子・孫弟子の花押の形状を凝視し、山川氏の提唱以降、約一世紀にわたり多くの研究者に受け継がれ、定説と化した感がある日蓮花押＝梵字説について再検討を試みます。

【講師略歴】

西山明仁（にしやまみょうにん）：1978年新潟県三条市生まれ。立正大学大学院修士課程修了。現在、法華宗（陣門流）宗学研究所研究員、法華宗（陣門流）学林教授、法華コモンズスタッフ、『法華仏教研究』編集委員。「摩訶一日印の本尊論の一考察」（『法華仏教研究』第30号、2020年）、「日蓮花押の母字の考察」（『法華仏教研究』第33号、2022年）等。

第2回 チベット仏教の他空説の源流について

講師：望月海慧 先生

【日 時】 2022年 11月26日(土) 午後4時30分～6時30分

【講義概要】

チベット仏教では空性理解をめぐる、存在自身の自性は空であるという自空説(rang stong)と、仏性を除

く他の存在が空であるという他空説 (gzhan stong) との二つの見方がある。前者は、主流派であるゲルク派のツォンカパ (1357-1419) らの立場であり、後者はチョナン派のトルポパ (1292-1361) らの立場であり、後者は前者により異端とされ、攻撃された。

この「空」に対する二つの解釈は、インド仏教にもあった。すなわち、中観派に見られる「自性」を無として解釈する見方と、瑜伽行唯識派に見られる真如を有として解釈する見方とである。これらの根拠となる教義は、それぞれ般若経典に見られる「空・無自性」と、如来蔵経典に見られる「如来蔵・仏性」ということになる。この後者の解釈は、初期経典の「小空経」にも見ることができる。

しかしながら、トルポパは自らの立場を瑜伽行唯識とは言わず、「大中観 (dbu ma chen po)」と称する。この言葉は、アティシャ (982-1054) の著作にも見ることができ、インド由来であることが確認できる。後期インド仏教の論師たちは、ナーガールジュナとアサンガを併記して引用しており、後のチベット仏教の宗義書で論じられるような中観学派と瑜伽行唯識派の思想的対立が現実のサンガの実態を示しているのか、については注意が必要である。チベット仏教における空性理解に対する二つの見方は、仏教思想史を統合的に捉える見方と、批判的に正統なものを選択する見方との二つの方向性を示している。

【講師略歴】

望月海慧 (もちづきかいえ) : 1962 年、山梨県生まれ。東京都立大学法学部法律学科卒業、立正大学大学院文学研究科博士課程単位取得、ハンブルク大学インド・チベット歴史文化研究所客員研究員、博士 (文学、立正大学)。現在、身延山大学教授。

著書に、A Study of the Mahāsūtrasamuccaya of Dīpaṃkaraśrījñāna 2 vols., Minobusan University, 2001-4、『TĀRANĀTHA の DMU MA THEG MCHOG 研究』(身延山大学チベット学研究室, 2011 年)、『全訳 アティシャ 菩提道灯論』(起心書房, 2015 年) 他。

第3回 日蓮伝再考～日蓮神話を超えて

講師：松尾剛次 先生

【日 時】 2022 年 12 月 24 日 (土) 午後 4 時 30 分～6 時 30 分

【講義概要】

日蓮の伝記については、汗牛充棟たる研究があるが、ここでは、日蓮を歴史学的に再考する。というのも、日蓮伝は祖師神話に包まれているからだ。本講義では、そうした神話を離れて、日蓮が生きた時代の中に立ち返って、日蓮を見直したい。たとえば、日蓮がなぜ比叡山延暦寺へ登ったのかという点に関しては、当時の国家的な授戒制が機能していたことを知れば、天台宗山門派清澄寺所属の官僧日蓮が延暦寺へ登ったのは延暦寺戒壇での受戒を受けるためであったことは言うまでもないことである。また、佐渡配流については、日蓮側の資料から論じられてきたが、忍性に注目して、相対視したいと考える。『本朝高僧伝』では、忍性が赦免を願ひ、日蓮が許されたとある。日蓮と忍性との両方を見ることで、竜口法難も見直せるであろう。

【講師略歴】

松尾剛次 (まつおけんじ) : 1954 年長崎県生まれ。1981 年東京大学博士課程を経て、山形大学へ着任。2019 年山形大学を退職。山形大学名誉教授。著書に、『勧進と破壊の中世史』『中世律宗と死の文化』『新版 鎌倉新仏教の成立』(いずれも吉川弘文館)、『仏教入門』(岩波ジュニア新書)、『破戒と男色の仏教史』『葬式仏教

の誕生』『知られざる親鸞』『日本仏教史入門』（いずれも平凡社新書）他。

第4回 『観心本尊抄』から『曾谷入道殿許御書』へ 講師：菅原関道 先生

【日 時】 2023年 1月28日（土） 午後4時30分～6時30分

【講義概要】

宗祖の法義は佐渡期から身延初期にかけて進展がみられます。そのことについて『観心本尊抄』『法華取要抄』『曾谷入道殿許御書』を中心に拝察します。これまで議論されてきた問題点について私見を提示し、あまり注目されてこなかった観点についても述べてみたいと思います。

【講師略歴】

菅原関道（すがわらかんどう）：1959年、北海道生まれ。立正大学仏教学部宗学科卒。現在、興風談所所員。近年の論文に「『曾谷入道殿許御書』「娑婆世界衆生最初下種菩薩也」考」（『興風』32号）、「『法華取要抄』と『曾谷入道殿許御書』の比較考察」（『興風』33号）がある

第5回 『大乘起信論』の本覚思想について 講師：花野充道 先生

【日 時】 2023年 3月25日（土） 午後4時30分～6時30分

【講義概要】

日本仏教のみならず、日蓮教学においても、「本覚思想」についての議論がさまざまところで行われている。その際、いわゆる「天台本覚思想」と、『大乘起信論』に説かれる「本覚の思想」を区別する必要があることは、つとに私が主張してきたところである。

天台本覚思想が「空思想」の不二相即論に基づくのに対して、『大乘起信論』に説かれる本覚の思想は「如来蔵思想」に基づいている。そのような如来蔵思想は、「仏教に非ず」と主張されたのは松本史朗氏である。松本氏の「如来蔵」の語を「本覚」の語に変えて、袴谷憲昭氏は「本覚思想は仏教に非ず」と主張された。すなわち、『大乘起信論』の「本覚思想」は、「常楽我浄説の如来蔵思想であるから仏教に非ず」というのが袴谷説の趣旨である。そこで、『大乘起信論』に説かれる「本覚」の思想は、どのような思想構造をしているのか、『大乘起信論』の本文に沿って「覚」「不覚」「始覚」「本覚」「相似覚」「随分覚」「究竟覚」などの教理について解説してみたい。

【講師略歴】

花野充道（はなのじゅうどう）：1950年京都府生まれ。早稲田大学大学院文学部東洋哲学専攻博士課程修了。博士(文学)。法華仏教研究会主宰。『法華仏教研究』編集長。法華コモンズ仏教学林教学委員。単著に『天台本覚思想と日蓮教学』（山喜房仏書林、2010年）、単編著に『シリーズ日蓮第1巻・法華経と日蓮』（春秋社、2014年）、『シリーズ日蓮第2巻・日蓮の思想とその展開』（春秋社、2014年）、『シリーズ日蓮第3巻・日蓮教団の成立と展開』（春秋社、2015年）、『花野充道博士古稀記念論文集—仏教思想の展開・日蓮仏教とその展開』（山喜房仏書林、2020年）。他、論文多数。

— 法華コモンズ仏教学林 2022年度後期 全6回 **対面&実況** —

「『法華経』『法華文句』講義」

講師 **菅野 博史 先生**

【講義概要】

今年度の後期も、『法華経』『法華文句』の講義を継続します。『法華文句』は『法華経』の随文釈義の注釈書ですので、「注釈書読みの経典知らず」にならないためには、『法華文句』を読むときには、常に『法華経』の本文を読まなければなりません。現在、『法華文句』の本文を地道に読む機会はほとんどないと思われるので、この講義では、『法華文句』の本文をすべて読んでいます。もちろん同時に『法華経』も読んでいきます。受講生のご希望がある限り、地道に続けていきたいと思っています。後期も「方便品」の随文釈義の部分进行学习していきます。

- ★教科書『法華文句』Ⅱ（第三文明社、各冊 2,530 円） ★コモンズ割引価格 2,000 円（受付にて）
- ★『法華経』はプリントを配布します

【講師略歴】

菅野博史（かんのひろし）：1952年福島県生まれ。1976年東京大学文学部印度哲学印度文学科卒業。1984年東京大学大学院博士課程（印度哲学）単位取得退学。1994年文学博士（東京大学）。現在、創価大学文学部教授、（公財）東洋哲学研究所副所長。専門は、仏教学、中国仏教思想史。著書に『一念三千とは何か—摩訶止観正修止観章—』（第三文明社）、『法華経入門』（岩波書店）、『中国法華思想の研究』（春秋社）、『南北朝・隋代の中国仏教思想研究』『法華経—永遠の菩薩道—』（大蔵出版）など多数。訳書に『現代語訳 法華玄義』上・下（東洋哲学研究所）、『現代語訳 法華玄義釈籤』上・中（松森秀幸と共訳、東洋哲学研究所）など多数。

【講義日】 全6回、時間（原則・最終月曜日）：午後6時30分～8時30分

第1回（第53講）	10月24日	第4回（第56講）	1月30日
第2回（第54講）	11月28日	第5回（第57講）	2月27日
第3回（第55講）	12月19日	第6回（第58講）	3月27日

【会場】 新宿 常円寺 祖師堂 地階ホール

※対面講義が不可の場合は、オンラインまたは動画配信講義に切替えて開催する予定です

【受講料】 1期6回分 12,000 円 ※当日1回の受講料は 3,000 円です

「『摩訶止観』講義」

対面&実況

講師 菅野 博史 先生 ●『文句』講義と同日の午後3時半より●

福神研究所主催 『摩訶止観』講義の再開のご挨拶

菅野 博史

『摩訶止観』の講義を開始したのは、2014年9月22日でした。福神研究所の主催で、新宿常円寺を会場として、毎月一回の講義を行ないました。五年半ほど続け、巻第五下の「若無、無不能生」(T46, 64c19)まで講義したところで、コロナ禍のために、講義を中断せざるを得なくなりました。

私は、これまで『法華玄義』上・中・下、『法華文句』I～IVの訓読訳を第三文明社から刊行したことがあります。現在はいずれも第三文明選書に収められています。『法華玄義』については、大蔵出版の『新国訳大蔵経・中国撰述部』の中にも収めていただきました。『現代語訳 法華玄義』上・下(公益財団法人東洋哲学研究所)も刊行しました。『摩訶止観』についても、第三文明選書として、今年の夏に、全四巻のうちの第一巻を刊行致します。個人による天台三大部の翻訳の完成に挑戦したいと思っています。すでに法華コモンズ主催の『法華経』『法華文句』講義は、対面・オンライン実況の形式で進めています。これについては動画配信のサービスも提供しています。

『摩訶止観』の講義の再開にあたっては、対面・オンライン実況の形式で進める予定です。毎月一回(原則的に、月末の月曜日)、午後3時半～5時半の2時間の講義といたします。8月の講義は、二年半ぶりの再開ですので、(1)復習として、『摩訶止観』の全体の解説、とくに十境十乗観法の解説をし、(2)前回(2020年2月17日)の続きとして、『摩訶止観(上)』(岩波文庫)の338頁12行目「かくのごとく四句をもって相続仮を押し心求むるに得ざれば～」から講義します。

●テキストについて

○基本テキスト：『摩訶止観』上下二冊(岩波文庫)

○参考図書：菅野 博史 著『一念三千とは何か『摩訶止観』(正修正観章)』第三文明社

※その他、必要な参考資料やレジュメはこちらで用意して配布いたします

●開催日時：『法華経』『法華文句』講義 日と同日の、午後3時30分～5時30分

2022年 8月29日、9月26日、10月24日、11月28日、12月19日

2023年 1月30日、2月27日、3月27日

●会場：新宿 常円寺 祖師堂 地階ホール

●受講料：1回2,000円(対面もオンラインも同額です、受講料の納入は毎回ごととなります)

※「対面は当日払い」で予約が不要。／「オンラインは毎月申込のURLが変わる」ので予約が必要。

●オンライン(Zoom)実況の予約と受講について

- ① メールでオンライン受講の申込み(氏名・連絡先)をお送りください⇒ koueizan@zenryu-ji.jp
- ② 折り返し「『摩訶止観』講義の告知」欄のURLをお知らせしますので、Peatixからお申込み・受講料の納入をお願いいたします。お申し込み後は、毎月の開催案内をメールにて送ります。
- ③ 受講費の納入を確認後に、当日のZoom入室のURLとレジュメ資料のURLを送付します。
- ④ 当日の開始時間(午後3時半)になりましたら、入室URLをクリックして、御受講下さい。
- ⑤ 受講費の「領収書」が必要な方は申込み時に書き添えてください。メールまたは郵送にて送ります。

主催：福神研究所 静岡県富士市今泉1-1-1 本國寺内 FAX：0545-52-0094

法華コモンズ仏教学林 講座映像(DVD)シリーズ 販売中!

◎「初期仏教研究」

池上要靖先生 全6回

【講師】池上要靖(いけがみようせい):立正大学大学院修士課程修了。身延山大学仏教学部長・教授。立正大学文学部非常勤講師。専門は、初期・東南アジア仏教、仏教福祉学。論文に「kulaputri が意味するもの」など多数。

第1回「初期仏教経典の理解」

第2回「史料価値としての初期経典」

第3回「経典成立の過程—記憶から記録へ—」

第4回「仏滅年代の記述」

第5回「もう一つの仏像建立史」

第6回「初期仏教経典は仏説か？」

◎「『吾妻鏡』と鎌倉仏教」

菊地大樹先生 全6回

第1講 『吾妻鏡』と鎌倉仏教

第2講 源頼朝の時代と法華信仰

第3講 鎌倉武士と仏教

第4講 都市鎌倉と天台宗

第5講 都市鎌倉と日蓮

第6講 京と鎌倉、そして鎌倉仏教

◎「歴史から考える日本仏教」

菊地大樹先生 各全6回

① 鎌倉時代を射程に置いて

② 《顕密問題》を考える

③ 日本宗教史の名著を読む

④ 鎌倉仏教史の名著を読む

※講義の概要などは法華コモンズブログの講義報告(2018年4月～)で確認できます。

【A版】全6回講義の動画ファイルとレジュメPDF ダウンロード販売:価格 12,000円(消費税込)
※高画質の動画のため、高速インターネット環境をお持ちの方に適しています。

【B版】全6回講義のDVD6枚組とレジュメ印刷物 郵送(レターパック)販売:価格 12,500円(消費税込)
※インターネット環境をお持ちでない方、家庭用DVDプレーヤーによる再生の方に。

【ご購入方法】

A、住所・氏名・電話・購入の版をご記入の上ファックス送付⇒ FAX 番号 042-627-7227

B、ブログの講座申し込みフォームによる申し込み⇒ <https://hokke-commons.jp>

受講の申込について

聴講希望の方は、この頁のコピーまたは別紙(チラシ)申込欄の各項目に御記入頂きまして、下記のファックス番号にご送信ください。申込用紙が届きましたら、「受講手続き書類」をお送りいたしますので、その手続きに従って1期分の「受講料」をお振込下さい。また「コモンズ口座の郵便振込票」をお持ちの場合は、通信欄に希望講座をお書きの上、振込票をお使いください。お振込を確認しましたら、「受講証」・「受講の手引き」そして領収書をお送りします。なお、メールで申込希望の方は、同様の内容をお書きの上、下記のアドレスに送信してお申し込み下さい。なお、受講者が極端に少ない場合は開講を見合わせますので、ご了承下さい。

メールアドレス ⇒ hokkecommons@gmail.com
FAX 番号⇒ 042-627-7227 / ブログ⇒ <https://hokke-commons.jp>

..... 申込欄

《受講希望の講座の□をチェックして下さい(いくつでも結構です)》

- 一日集中講座「偽書が生み出した日本仏教」(1回) 講師：佐藤弘夫×菊地大樹
- 「仏教哲学再考一『八宗綱要』を手掛かりに」⑤(全4回) 講師：末木文美士
- 「震災転移論一末法の世に菩薩が来りて衆生を救う？」(全6回) 講師：磯前 順一
- 「史実・僧侶妻帯世襲一ブツダ時代から現代まで」(全6回) 講師：大竹 晋
- 連続講座「法華仏教講座」(全5回)
※個別の受講の場合 1回 2回 3回 4回 5回
- 『法華経』『法華文句』講義」(全6回) 講師：菅野 博史

上記、チェックを入れた講座の受講申込みをいたします

○氏名 _____ 男・女 _____ 才

○住所 〒 _____

○電話 _____ Fax (mail) _____

2022(令和4)年 8月10日 発行 **法華コモンズ仏教学林 事務局**

192-0051 八王子市元本郷町 1-1-9 善龍寺内 FAX 042-627-7227